

1.病床利用率

・計算式

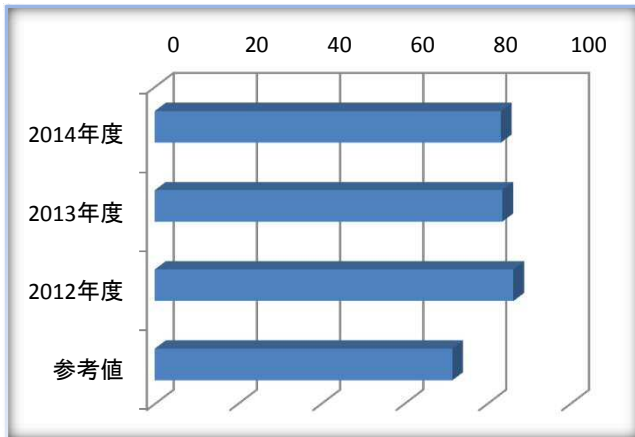
延在院患者数 / (許可病床数 × 365日)

・参考値

2014年度 病院運営実態分析調査の概要(表2・一般病院の病床利用率、病院規模別(100~199床)):全国公私病院連盟

・概要

病床の利用割合になります。



	病床利用率 (%)
2014年度	83.3
2013年度	83.6
2012年度	86.3
参考値	71.6

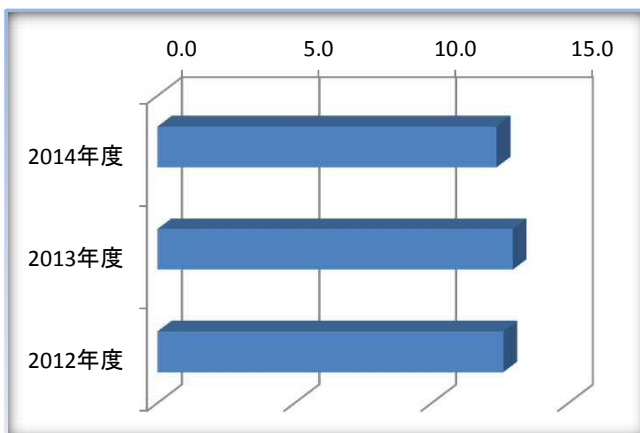
2.病床回転数

・計算式

(新入院患者数 + 新退院患者数) × (1/2) / 稼働病床数

・概要

1病床の該当期間(ここでは年間)での回転数になります。



	病床回転数
2014年度	12.4
2013年度	13.0
2012年度	12.6

3.平均在院日数

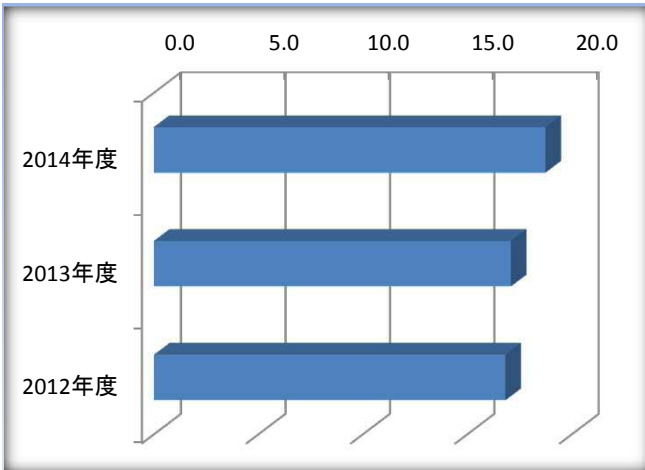
・計算式

延在院患者数 / {(入院患者数 × 退院患者数) / 2}

※但し、上記の延在院患者数・入院患者数・退院患者数については、「基本診療料の施設基準等及びその届出に関する手続きの取扱いについて」(平26.3.5 保医発0305 1)の 別添6の別紙4における在院患者延日数・新入棟患者数・新退棟患者数に相当する。

・概要

該当期間内における入院患者1人あたりの平均的な入院日数を表します。



	平均在院日数
2014年度	18.8
2013年度	17.1
2012年度	16.8

4.6週間以内の再入院率

・計算式

6週間以内再入院数 / 年間入院症例数

※DPC提出データより抽出

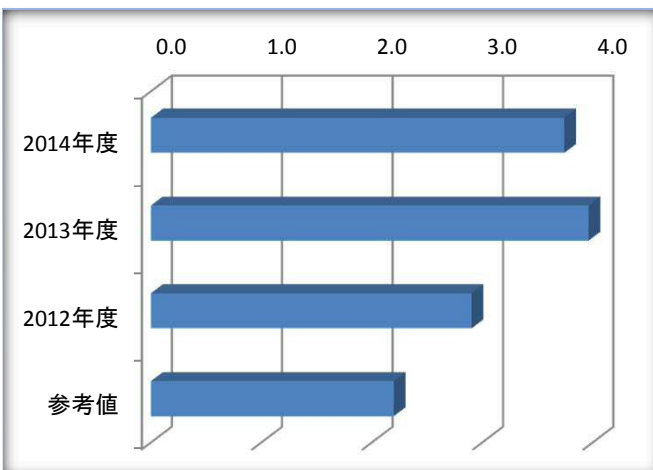
・参考値

2014年度 厚生労働省「医療の質の評価、公表等推進事業」全日本民医連報告書よりI-3退院後42日以内の緊急の再入院割合の中央値

・概要

前回入院の傷病名(医療資源を最も投入した傷病名)が、今回入院の傷病名(入院契機となった傷病名)とDPC上6桁が同一の症例で、前回退院後42日以内に予期せぬ再入院をした割合です。

※今回入院の入院中の主な診療目的が「3.計画された短期入院の繰り返し」を除く



	6週間以内の再入院率 (%)
2014年度	3.7
2013年度	4.0
2012年度	2.9
参考値	2.2

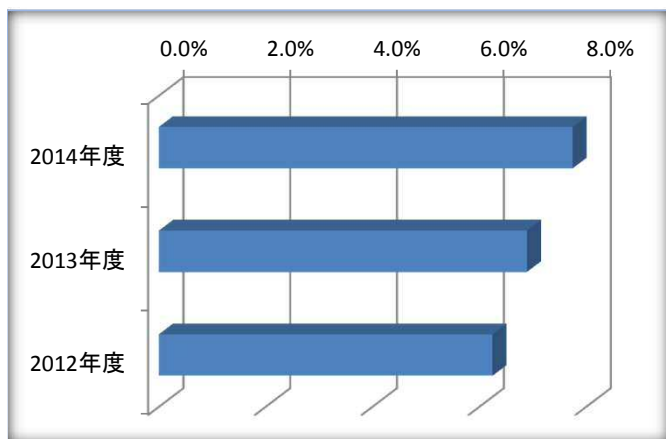
5.死亡退院患者率[死亡粗率]

・計算式

死亡退院患者数／年間退院患者数

・概要

年間死亡退院患者数の年間退院患者数に占める割合になります。



	死亡粗率 (%)
2014年度	7.7%
2013年度	6.9%
2012年度	6.3%

6.救急車搬入率

・計算式

分子: 親様式1の「入院経路」が“1.家庭からの入院”、“4.他の病院・診療所の病棟からの転院”又は“5.介護施設・福祉施設に入所中”で、かつ「救急車による搬送の有無」が“1.有”の症例数

分母: 親様式1の対象者数

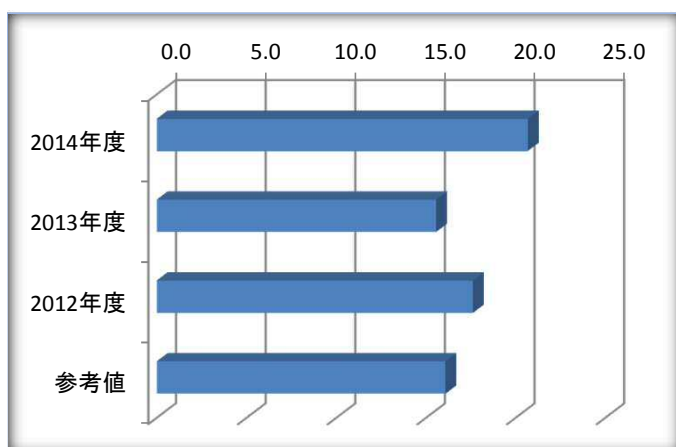
※DPC提出データより抽出

・参考値

2013年度 全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業の参加病院全体の中央値

・概要

全親様式の対象患者のうち、DPC調査における様式1の「入院経路」が“1.家庭からの入院”、“4.他の病院・診療所の病棟からの転院”又は“5.介護施設・福祉施設に入所中”でかつ、「救急車による搬送の有無」が“1.有”の症例の割合になります。



	救急車搬入率 (%)
2014年度	20.7
2013年度	15.6
2012年度	17.6
参考値	16.1

7.2週間以内の退院サマリー完成率

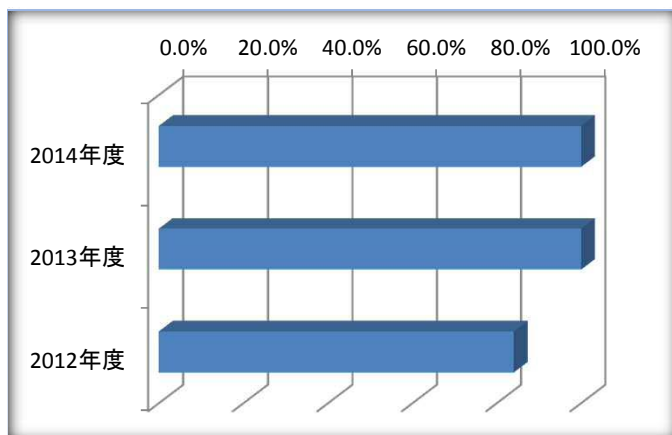
・計算式

分子: 退院後2週間以内にサマリーを記載した件数

分母: 退院患者数

・概要

各退院日から起算して2週間以内にサマリーを記載した件数の退院患者全体に占める割合です。



	完成率
2014年度	100.0%
2013年度	100.0%
2012年度	84.1%

8.部位不明・詳細不明コード率

・計算式

分子: 様式1の「医療資源を最も投入した傷病名」のICD-10コードが一覧表のコード(※1)に該当する症例の件数

分母: DPC調査対象退院患者数

※全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業より抽出(2012・2013年度)

※DPC提出データより抽出(2014年度)

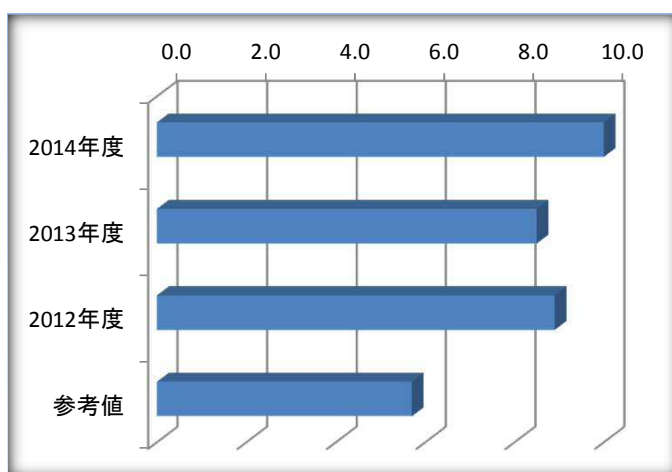
※1 厚生労働省告示『留意すべきICD-10コード』一覧表の部位不明・詳細不明コード

・参考値

2013年度 全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業の参加病院全体の中央値

・概要

DPC調査対象の退院患者の内、DPC調査様式1の「医療資源を最も投入した傷病名」のICD-10コードが厚労省告示の『留意すべきICD-10コード』一覧表の部位不明・詳細不明コードに該当する割合になります。



	部位不明・詳細不明コード率 (%)
2014年度	10.0
2013年度	8.5
2012年度	8.9
参考値	5.7

9.脳梗塞症例の平均在院日数(一般病床のみ)

・計算式

分子:脳梗塞症例(DPC6桁コードが010060)の在院日数(一般病床のみ)合計

分母:脳梗塞症例(DPC6桁コードが010060)の症例数

※全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業より抽出(2012・2013年度)

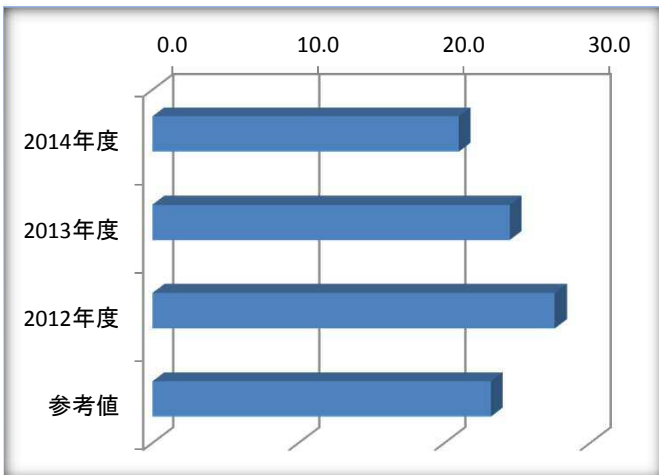
※「病歴大将」・医事システムより集計(2014年度)

・参考値

2013年度 全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業の参加病院全体の平均値

・概要

脳梗塞(DPC6桁コードが010060)の症例の一般病床のみの在院日数合計を脳梗塞症例数で除した、平均日数になります。



	脳梗塞症例の平均 在院日数(日)
2014年度	21.0
2013年度	24.5
2012年度	27.6
参考値	23.2

10.肺炎患者の平均在院日数(一般病床のみ)

・計算式

分子:肺炎症例(DPC6桁コードが040080)の在院日数(一般病床のみ)合計

分母:肺炎症例(DPC6桁コードが040080)の症例数

※全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業より抽出(2012・2013年度)

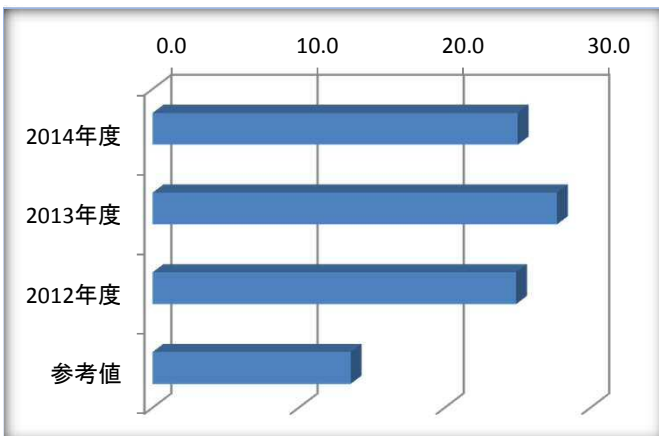
※「病歴大将」・医事システムより集計(2014年度)

・参考値

2013年度 全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業の参加病院全体の平均値

・概要

肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(DPC6桁コードが040080)の症例の一般病床のみの在院日数合計を肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(DPC6桁コードが040080)の症例数で除した、平均日数になります。



	肺炎患者の平均 在院日数(日)
2014年度	25.0
2013年度	27.7
2012年度	24.9
参考値	13.6

11.市中肺炎重症度別退院患者数

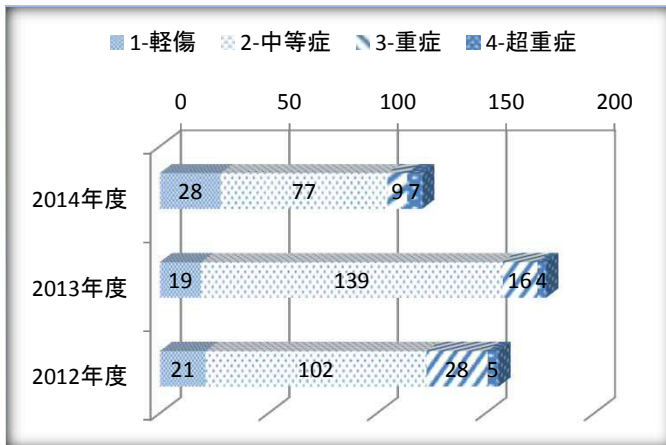
※DPC提出データより集計

※重症度は、日本呼吸器学会 市中肺炎ガイドラインによる重症度分類システム(A-DROPシステム)により分類。

※市中肺炎とは、普段の生活を送る中で罹患した肺炎を言います。

・概要

最も医療資源を投入した傷病名が、肺炎・急性気管支炎・急性細気管支炎(DPC6桁コードが040080)、又はインフルエンザ・ウイルス性肺炎(DPC6桁コード040070)であるものになります。



12.脳梗塞症例のエタラボン使用率

・計算式

分子:脳梗塞症例(DPC6桁コードが010060)のうちエタラボン使用症例数

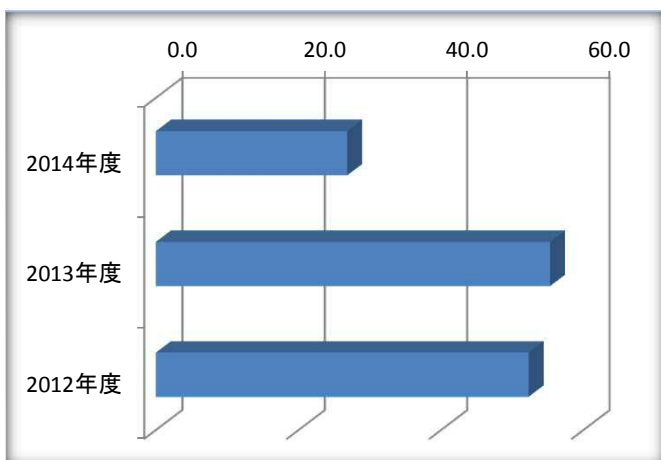
分母:脳梗塞症例(DPC6桁コードが010060)の症例数

※全国自治体病院協議会DPCデータ分析事業より抽出(2012・2013年度)

※DPC提出データより集計(2014年度)

・概要

脳梗塞(DPC6桁コードが010060)の症例において、エタラボンを使用した症例数の割合になります。



	使用率(%)	エタラボン使用症例数	脳梗塞症例数
2014年度	26.8	11	41
2013年度	55.3	26	47
2012年度	52.3	34	65

13.褥瘡発生率

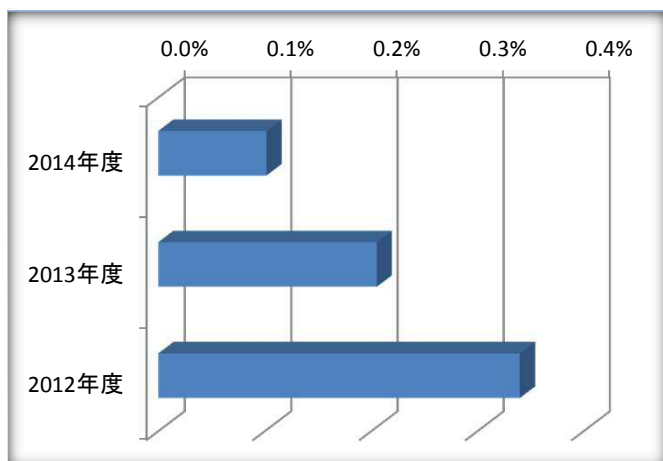
・計算式

分子: 褥瘡の院内新規発生患者数

分母: 延在院患者数

・概要

入院時すでに褥瘡が発生している分を除き、院内で新規に発生した褥瘡の発生率になります。



	褥瘡発生率 (%)
2014年度	0.1%
2013年度	0.2%
2012年度	0.3%

14.全身麻酔実施症例に対する肺血栓塞栓症予防実施率

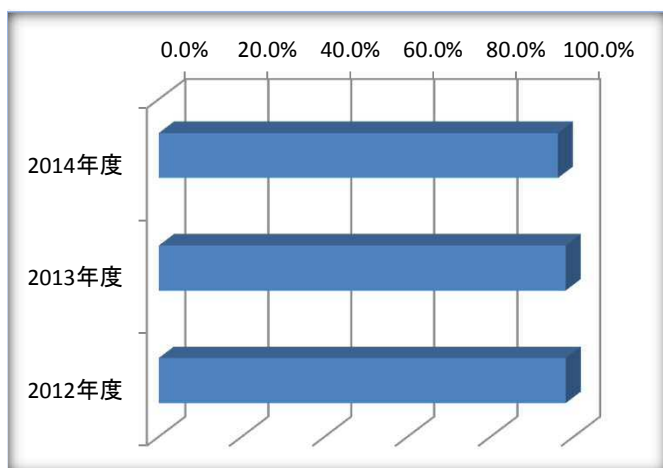
・計算式

分子: 全身麻酔実施、且つ、肺血栓塞栓症予防管理料算定症例数

分母: 全身麻酔実施症例数(15歳以上)

・概要

15歳以上の全身麻酔実施症例の内、肺血栓塞栓症予防管理料を算定している症例の割合です。



	実施率 (%)	肺血栓塞栓症予防管理料算定症例数	全身麻酔実施症例数
2014年度	96.2%	51	53
2013年度	98.1%	52	53
2012年度	98.1%	53	54